

中国・四国ブロックのエイズ発生動向の概要（令和元年）

令和3年3月4日

中国・四国ブロック内治療拠点病院等連絡協議会事務局

1 報告数（令和元（2019）年）

全国の新規H I V感染者報告数は903件（前年940件）、新規A I D S患者報告数は333件（前年377件）、H I V感染者とA I D S患者を合わせた新規報告数は1,236件（前年1,317件）であった（図1）。H I V感染者とA I D S患者を合わせた新規報告数に占めるA I D S患者の割合は26.9%（前年28.6%）であった。（図1）

中国・四国ブロックの新規H I V感染者報告数は43件（前年42件）、新規A I D S患者報告数は9件（前年32件）、H I V感染者とA I D S患者を合わせた新規報告数は52件（前年74件）であった（図2）。H I V感染者とA I D S患者を合わせた新規報告数に占めるA I D S患者の割合は17.3%（前年43.2%）であった。（図2）

図1 全国の新規感染者等報告数の年次推移

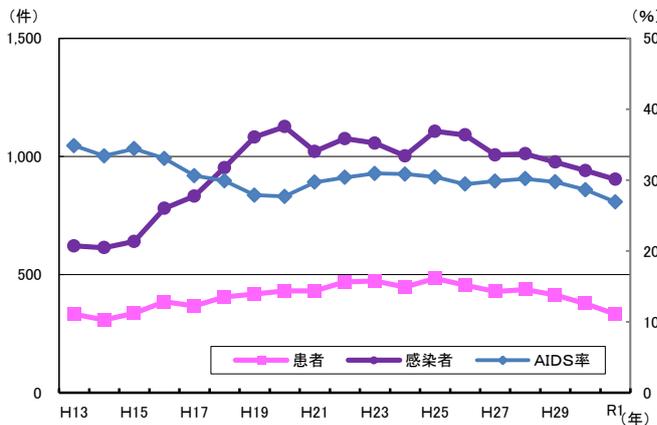
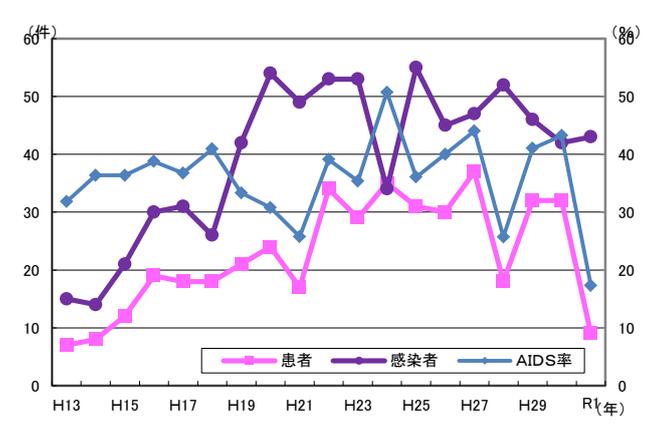


図2 中国・四国ブロックの新規感染者等の年次推移



※AIDS率：H I V感染者とA I D S患者を合わせた新規報告数に占めるA I D S患者の割合

2 感染経路（令和元（2019）年）

(1) H I V感染者

全国におけるH I V感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が136件（15.1%）、同性間の性的接触による感染が651件（72.1%）で、性的接触による感染は合わせて787件（87.2%）を占めた。また、静注薬物使用による報告が2件あった。

中国・四国ブロックにおけるH I V感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が10件（23.3%）、同性間の性的接触による感染が30件（69.8%）で、性的接触による感染は合わせて40件（93.0%）を占めた。

(2) A I D S患者

全国におけるA I D S患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が56件（16.8%）、同性間の性的接触による感染が180件（54.1%）で、性的接触による感染は合わせて236件（70.9%）を占めた。また、母子感染1件、静注薬物使用による報告が1件あった。

中国・四国ブロックにおけるA I D S患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が3件（33.3%）、同性間の性的接触による感染が3件（33.3%）で、性的接触による感染は合わせて6件（66.7%）を占めた。

3 報告地（令和元（2019）年）

(1) HIV感染者

HIV感染者（903件）は、東京都を含む関東・甲信越ブロックが53.2%（480件）と多くを占める。次いで、近畿ブロックが16.5%（149件）、東海ブロックが9.9%（89件）であった。中国・四国ブロックは4.8%（43件）と横ばいの傾向がみられる。

報告数の上位は、東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、福岡県等となっている（表1）。

人口10万対をみると、中国・四国ブロックでは、香川県、徳島県が上位10位に入っている（前年は岡山県）（表1）。

なお、中国・四国ブロック各県における人口10万対の報告数は表3のとおりである。

(2) AIDS患者

AIDS患者（333件）は、HIV感染者と同様に、東京都を含む関東・甲信越ブロックが42.9%（143件）と集中し、次いで、九州ブロックが16.5%（55件）、近畿ブロックが15.6%（52件）となっている。中国・四国ブロックは2.7%（9件）と減少した。

報告数の上位は、東京都、大阪府、愛知県、福岡県、神奈川県等となっている（表2）。

人口10万対を見ると、中国・四国ブロックは、上位10位に入っていない（前年は徳島県、高知県、広島県）（表2）。

なお、中国・四国ブロック各県における人口10万対の報告数は表3のとおりである。

表1 新規HIV感染者報告数上位10位の自治体

都道府県	報告数	都道府県	人口10万対
1 東京都	335	1 東京都	2.41
2 大阪府	106	2 大阪府	1.20
3 愛知県	66	3 愛知県	0.87
4 神奈川県	44	4 福岡県	0.86
4 福岡県	44	5 沖縄県	0.76
6 埼玉県	31	6 佐賀県	0.74
7 千葉県	30	7 群馬県	0.72
8 北海道	27	8 香川県	0.63
9 兵庫県	19	9 栃木県	0.57
10 群馬県	14	10 徳島県	0.55

表2 新規AIDS患者報告数上位10位の自治体

都道府県	報告数	都道府県	人口10万対
1 東京都	71	1 福岡県	0.57
2 大阪府	34	2 沖縄県	0.55
3 愛知県	29	3 東京都	0.51
3 福岡県	29	4 滋賀県	0.42
5 神奈川県	27	5 大阪府	0.39
6 埼玉県	15	6 愛知県	0.38
7 北海道	12	7 大分県	0.35
8 千葉県	11	8 岐阜県	0.35
9 沖縄県	8	9 鹿児島県	0.31
9 静岡県	8	10 神奈川県	0.29

表3 中国・四国ブロックの人口10万対報告数

	HIV感染者		AIDS患者	
	報告数	人口10万対	報告数	人口10万対
鳥取県	3	0.540	1	0.180
島根県	1	0.148	1	0.148
岡山県	8	0.423	2	0.106
広島県	13	0.464	2	0.071
山口県	2	0.147	1	0.074
徳島県	4	0.549	0	0.000
香川県	6	0.628	1	0.105
愛媛県	5	0.373	1	0.075
高知県	1	0.143	0	0.000
中国・四国ブロック	43	0.391	9	0.082
全国	903	0.716	333	0.264

4 HIV抗体検査と相談

令和元（2019）年の中国・四国ブロックにおける，HIV抗体検査件数は7,570件（前年6,731件），相談件数は10,059件（前年9,052件）と，ともに増加した（図3）。

しかし，令和2（2020）年第1～2四半期における，HIV抗体検査件数は2,209件（前年同時期3,718件），相談件数は3,206件（前年同時期5,172件）と，ともに前年同時期と比較して減少している（表4，表5）。

感染等の早期発見は早期治療や感染拡大防止に結びつくことから，エイズ予防指針等も踏まえ，利便性に考慮した検査相談体制や普及啓発活動等について一層の取組が必要である。

図3 中国・四国ブロックの保健所等におけるHIV抗体検査・相談件数の年次推移

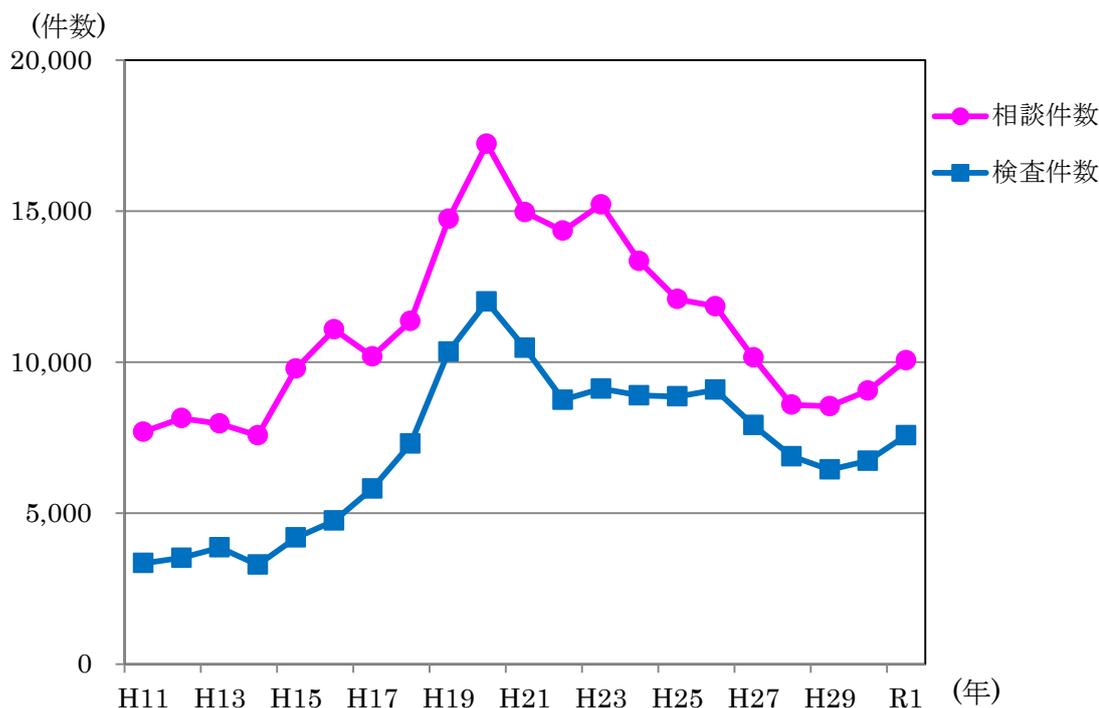


表4 保健所等におけるHIV抗体検査件数

	R1第1～2四半期	R2第1～2四半期
鳥取県	296	197
島根県	126	73
岡山県	534	270
広島県	1,067	628
山口県	409	245
徳島県	341	201
香川県	134	78
愛媛県	597	392
高知県	214	125
計	3,718	2,209

表5 保健所等における相談件数

	R1第1～2四半期	R2第1～2四半期
鳥取県	46	12
島根県	33	18
岡山県	1,264	723
広島県	2,108	1,307
山口県	251	174
徳島県	552	375
香川県	106	55
愛媛県	765	520
高知県	47	22
計	5,172	3,206

※第1～2四半期とは，1月から6月

※R2は速報値